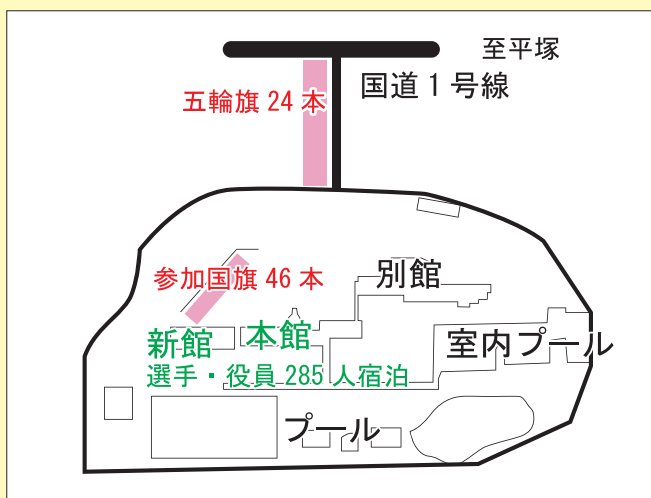


## 4 オリンピック選手村大磯分村

1964年の東京オリンピックでは、代々木に選手村が設置されましたが、東京以外で行われた競技に出場する選手のために、各地に選手村の分村が設置されました。その一つとして、江の島（藤沢市）で行われたヨット競技に出場する選手のための選手村分村が、大磯ロングビーチホテル（現大磯プリンスホテル）に開かれました。

### ■大磯ロングビーチホテル

大磯ロングビーチホテルは、1953年に当時の国府町にホテルとして開業し、東京オリンピックが開催される7年前の1957年にロングビーチが誕生しました。1962年8月にヨット競技の選手村として使用されることが決まり、新館が建設されました。



大磯選手村施設図

『第18回オリンピック東京大会／神奈川県』掲載図をもとに作成

### 東京オリンピック選手村準備OK

東京オリンピックのヨット選手村になる**大磯ロングビーチホテル新館が完成…**（略）  
…新館は地下1階、**地上5階建**、延べ5,202平方メートル、全部洋間で83室、1室が3人から6人入りで**定員は、275人**。これとホテル本館を合わせ約380人の選手を迎えることになります。

各室とも**冷暖房とバス付き冷蔵庫やテレビも備えられ**、ベッドはスタジオベッド改良の新型でソファ兼用が特色。

海浜向きの特色のある絵を飾ります。

1階の食堂は200人の設備で、選手達は2回交代で食事をし、**食堂にはハワイ風景の大きなカラー写真を電光仕掛で飾る**ことになっています。

工費は設備費を合わせ約5億円、**選手村としては最高級のデラックスホテル**です。

『広報大磯』の記事より

### ■開村式と入村式

大磯ロングビーチホテルの選手村は、1964年9月15日から10月27日の43日間開村しました。開村した9月15日には、オリンピック組織委員会や県・町の関係者によって開村式が開かれました。入村式は、到着した国から順番に行われ、9月20日にオーストラリアの選手たちを迎えた1回目の式が行われました。



選手村となった大磯ロングビーチ

『第18回オリンピック東京大会／神奈川県』より

### ■大磯分村に宿泊した選手

大磯分村には、43か国285人の選手と役員が宿泊しました。ヨット競技に出場したノルウェーのハーラル皇太子（後のノルウェー国王ハーラル5世）も宿泊し、話題になりました。開村中は、パーティや生花展示が開かれ、大磯町として選手たちを盛大に迎えました。オリンピックが終わった後、宿泊した各国から、大磯町長に対してお礼の手紙が寄せられました。



開村記念に配られたピンバッチ